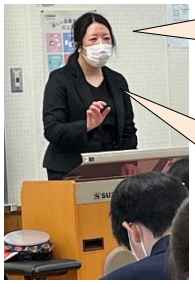
学　年	教科等	題材名	日　　時
第５学年	音楽科	へんそうの達人	令和４年１月 19 日（水）６校時

○　子どもの姿からの報告

「へんそう」とは…（本時の課題）

先生は…「かつら、サングラス、蝶ネクタイ（アイテム）」を使うと変装できるね。

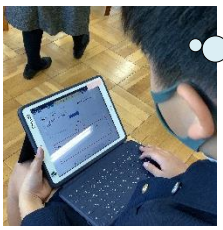


この曲（♪きらきら星）はかわいく「へんそう」できるかな？

じゃあ、どんな変奏のアイテムを使えば、音楽の「へんそう」ができるかな？

音を高くするとか、別の楽器の音に帰ればかわいい「きらきら星」になりそうです。

研究内容１：学習前の考え等の記述（変奏曲のおもしろさとは…）

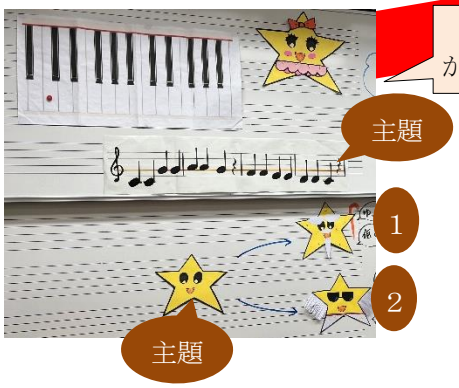


（「さくらさくら変奏曲（既習）」を聴いてみると）同じ曲のなかで、雰囲気が変わっていくのが、変奏曲のおもしろいところじゃないかな。

おじいちゃんだから、弱い音の方がいいかな。

この音にすると、なんか派手な雰囲気になるよ。

研究内容２：「きらきら星」を用いた「変奏」体験活動



主題を①や②のように変奏できるかな。

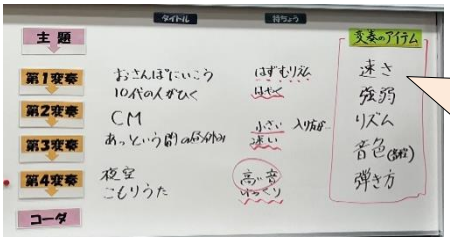
①の星は、おじいちゃんみたいな感じを出したいと思っていたら、〇〇さんが「ゆっくりにするとそういう感じがでるよ。」と教えてくれたので、それを使ってみました。

とっても、ゆっくり動く感じがするなあ。

研究内容２：「『きらきら星』の変奏曲」の聴取と変奏のアイテムを見出す活動

速くなると、あっという間に通り過ぎていく流れ星のようだな。

第４変奏は、音が高くてオルゴールの音なので、子守歌のようでした。



…ということは、「（変奏のアイテム）速さ、強弱等」を変えることで、音楽も「変奏」できるんだね。

研究内容１：本時の学習後の考え等の記述と、協働的な活動のふりかえり

活動前は・・・（思い）

・リズムを変えることで、音楽がきょうちょうされる

学習して　こうなりました。

曲は変えずにリズム、速さなどをちょっとだけ変えるとまた別の音楽になることわかりました。

それは、　　さんが、

前で引いてくれた二人の演奏を聴いて速さやリズムを変えたら別の音楽に変わったからです。

○　考察

○　協働的な学びを、第１時の始めから仕組むことで、「こうしたいときには、どの音楽を形づくっている要素を変えるとよいか」という課題を仲間と共有する様子が見られた。

○　「きらきら星」を取り入れ、体験活動を行ったことで、変奏のイメージがもちやすく、様々な音楽を形づくっている要素を変えて変奏を試す様子が見られた。

●　全員が、自分の変容にかかわった仲間の存在をふりかえることができてはいなかった。協働的な学習が成立していない部分があったことが分かる。さらに協働的な学びのよさを実感できるような協働的な学習のさせ方を考える必要がある。